

# 二酸化塩素の濃度測定方法

～検知管式気体測定器の使い方～

## 【推奨製品】

ガステック製 気体採取器 : GV-100S

ガステック製 気体検知管 : No. 23L (二酸化塩素濃度測定範囲 : 0.05～0.6ppm)



気体採取器



気体検知管

手順	使用方法	備考	
1	気体検知管の両端をチップブレイカーに挿し込み折り取ります。	 チップブレイカー	 下の検知管は両端をカットした状態
2	気体検知管の G ➡ マークの矢印を気体採取器に向けて挿し込みます。 		
3	ハンドルが押し込まれた状態でガイドライン（赤線）とハンドルのガイドマーク（▲100）を合わせてハンドルを一気に最後まで引き、（ハンドルは固定されます。）そのまま測定箇所ですぐ2分間待ちます。測定値を読み取り、終了です。		 
4	検知管の値が0.05ppmに達していない場合は再度、上記3をおこないます。 （この場合の測定値を1/2にした値が正式な測定値となります。）  検知管の値が0.1ppmをオーバーした場合は、噴霧過多ですので運転を停止してください。 万が一、0.3ppmをオーバーしている場合は安全基準値を超えておりますので人が居る時は直ちに換気をおこない、0.1ppm未満にしてください。		

※ 詳細につきましては、メーカーの取扱説明書をご参照ください。

目盛の読み方、温度・湿度・気圧等の諸条件により、値の補正方法が記載されております。